地震直後の大磯の様子

大磯には警察署や町の助役（現在の副町長）が書いた日誌があって、当時の様子がよくわかるんだべぇ。それによると、警察署では、震災の翌日 2 日に救護所を開設したんだべぇ。

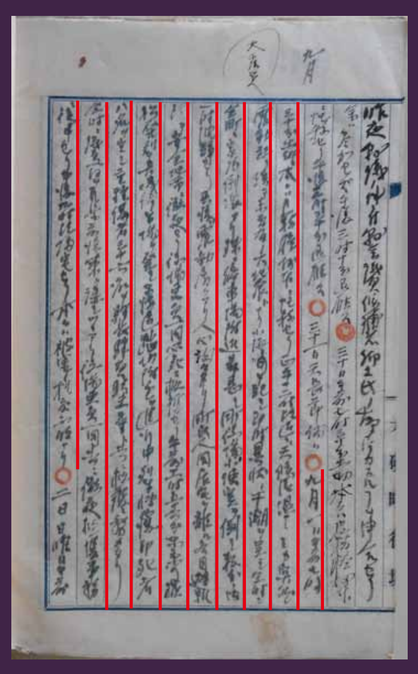
今でいう避難所ね。町も、5 日に湯呑所（ゆのみじょ）と幕を張った仮小屋をつくったわ。

大磯には、東京や横浜から避難してきた人もたくさんいたんだべぇ。そういう人たちの避難所にもなったんだべぇ。

こういうときは、食べ物がなくなるの。農家の人たちは、食べ物をつくっているので心配なかったみたいだけど、街に住んでいる人たちは、食べ物が手に入りにくくなったから、お店が食べ物を無料で配ったのよ。

警察署や町役場では、7 日頃からお米を安く売り始めたべぇ。静岡県からは、海を通って食べ物をもらったべぇ。ありがたい話だべぇ。

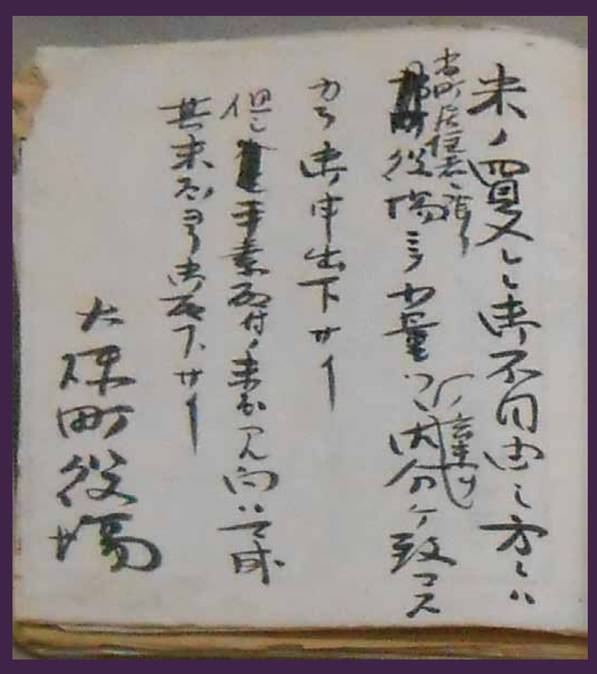
大磯町小見（こみ）助役の日誌



9 月 1 日の様子が約 9 行にわたって記されている。
（大磯町郷土資料館所蔵）

内容
○九月一日午前七時三十分出勤、本日は戸籍謄抄本事務に忙殺。正午十二時頃までは天候晴温。突然震動が起こり、続いて未曽有の大地震となる。小さな津波が起こり、即時異状の干潮。同時に全町で家屋倒壊。特に大磯駅付近が最もひどく、町役場の小使室が倒れた。数分の内一時沈静した。その後、小震動が度々あり、人々は恐れた…（略）…役場吏員一同は徹夜で救護事務に従事。本日は被害程度不明。

旧大磯町役場行政資料



町役場では、米の買い入れが不自由な町民へ玄米を分けた。
（大磯町所蔵）

大磯の復興

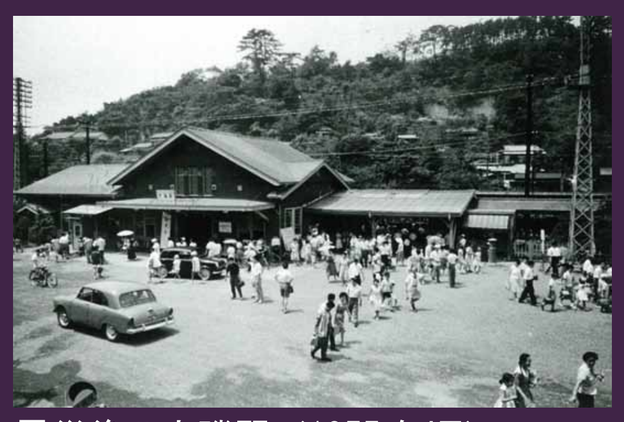
倒壊した建物の復興はすぐに進まなくて、翌年（1924 年）の記録によると、全壊した家屋 255 棟の内、163 棟がそのままで、新築したものは 34 棟しかなかったわ。別荘も倒壊したものが多くて、震災後は数が半分になったのよ。

土地が隆起（りゅうき）した大磯港や海水浴場では、暗礁（あんしょう）を削る工事をしたべぇ。海水浴場は 2 年後に開くことができたべぇ。

大磯駅の復興

震災前の大磯駅（1916 年頃）
（大磯町郷土資料館所蔵）

全壊した大磯駅は 1924 年（大正 13）10 月に新築されたべぇ。この駅舎は、現在の駅舎だべぇ。



震災後の大磯駅（1955 年頃）
（江藤愛三郎氏撮影）

ちなみに、大磯小学校は 7 年後の 1930 年（昭和 5）3 月にやっと新築校舎が完成したの。震災は、長い時間にわたって人々の生活に影響を与えたのね。